1_良質なお茶の生産を願い、参加者全員で「エイ、エイ、オー」と気勢を上げた　2_「茶葉奉献」などの神事が厳かに執り行われた祈願祭　3_手もみ体験に挑戦する来場者　4_市茶手揉保存会の会員による手もみ実演。同保存会は平成22年に「全国手もみ製茶技術競技大会」で日本一に輝いた　5_荒茶の機械製造見学をする家族連れ　6・9_お茶カフェでほっと一息。おいしいお茶と楽しい会話にみんなの笑顔がこぼれる　7_懐かしい遊び「茶の実相撲」に挑戦！　8_茶の粉末を使った手作り洋かんのサービスも　10_茶の芽の天ぷらと茶飯の試食コーナー。他にも新茶を使った料理が並び、来場者から大好評　11_お茶の詰め放題では「まだまだ入りますよ」の声が飛ぶ　12・13_ハウス茶園で10センチほどに伸びた新芽を摘む。手摘み初体験という参加者も多かった

おいしいお茶ができますように

「牧之原新茶まつり・新茶祈願祭」

新茶シーズンを前に「牧之原新茶まつり」が3月18日、JAハイナン茶業センター茶ぐりん牧之原で開かれました。

これは、緑茶ファンの拡大を目的にJAハイナンと市茶業振興協議会、茶生産者でつくる「ティーファーム牧之原」が毎年、主催しているものです。

新茶まつりに先立ち行われた「新茶祈願祭」には、茶生産者やJAハイナンなど茶業関係者約50人が出席。市茶業振興協議会の西原会長（市長）は、「一昨年は凍霜害、昨年は放射能で大変苦しい年でした。生産者がおいしいお茶を作ってくれるので、深蒸し茶発祥の地として販売する側も安心安全なお茶のPRに努めていただきたい」とあいさつをしました。

出席者全員が静岡牧之原茶で乾杯した後、JAハイナン青壮年部部長鈴木達也さん（牧之原区）の発声で、農作業の安全や活発な新茶販売を願って「エイ、エイ、オー」とこぶしを突き上げ、気勢を上げました。

会場にはお茶カフェの出店や新茶の手もみ体験、お茶の詰め放題コーナーなどたくさんのブースが並んだほか、敷地内の研修工場内では荒茶の機械製造見学も行われました。茶の芽の天ぷらや茶飯などの料理も振る舞われ、来場者は試飲や試食をしながら新茶の味と香りを楽しんでいました。

また、菅ケ谷にある山崎憲司さん（菅山区）のハウス茶園では新茶の手摘み体験も行われ、県内外から集まった参加者はもえぎ色に育った新芽を丁寧に摘んでいました。

この日、会場のあちこちで見られた多くの笑顔。香りとうま味たっぷりの静岡牧之原茶が出来上がり、皆さんがまた同じ笑顔で活気溢れる新茶シーズンを迎えられるように、期待で胸が膨らみます。

ティーファーム牧之原
代表　山崎 憲司さん

ハウス茶園での手摘み体験を始めて今回で７回目になります。新茶まつりの日から逆算して昨年のうちから管理を行うのですが、気温の予測が難しいですね。今年は１月、２月の気温が例年に比べ、平均して１度ぐらい低かったため暖房に頼り切りで、燃料費は昨年の約３倍でした。

寒い冬でしたが新芽には影響なく、発育状況は平年並みに推移しているので、例年どおり良質なお茶を収穫できそうです。